

「祖父江の虫送り」に参加しました！！



松明づくり



実盛人形づくり



今年の実盛人形



虫送りの行列



燃える松明



実盛の昇天

虫送りは麦わらで作った実盛（サネモリ）人形をシンボルとして鐘・太鼓を鳴らし松明の行列を作り、燃え盛る炎の中に実盛人形を昇天させ豊作を祈る江戸時代から続く伝統行事です。「祖父江の虫送り」は県の無形民族文化財として大切にされてきました。私たち杏和高校は 2014 年から参加しています。

今年は、7月7日（土）に実盛人形と松明づくりが行われて、虫送りそのものは雨天のために8日（日）に延期されました。

7日には生徒 23 人が参加しました。あっという間に地域の人とうちとけて楽しいひと時を過ごせました。大半の生徒が 2 年連続の参加だったので、全体の様子がわかっているため、実盛人形と馬の合体に関わる生徒、人形の足づくりに関わる生徒、手綱づくりに関わる生徒など、各自がいろいろなパーツ作りに参加させてもらいました。

8日は 17 人の生徒が行列に参加しました。例年より多くの松明が割り当てられたため大変でしたが、火や煙と格闘し無事コースを一周しました。夜空に燃え上がる実盛の炎は格別なものがありました

今年は、事前に地域活性化 twitter アカウントとして「祖父江虫送り」を開設し、宣伝も行いました。その様子は、新聞にも採りあげていただきました（巻末参照）。実際当日このツイッターを見て、大学院生が茨城県から行事を見に来ていることを知り、活動が無駄ではなかったことを確認し、みんなで大喜びしました。当日は、人形づくりの様子や行列の様子も、ライブ中継や画像配信を行いました。現在も、まだツイッター上で見るこ



とができるので右のQRをスマホで読み取って、ぜひご覧ください。

いろいろあって完成が遅れたために効果は少なくなりましたが、当日に自分たちが作成した虫送りの紹介チラシ(↓)も配布し、多くの人が手にしてくれました。



祖父江の虫送り

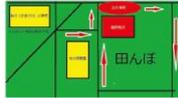
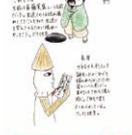
日時：平成三十年七月七日
 一部：十四時から 二部：十九時から
 場所：稲沢市立牧川小学校
 主催：祖父江虫送り牧川実行委員会

祖父江の虫送りとは



稲作に害をもたらす虫を追い払う豊作儀礼でムラの重要行事である。尾張全域で行われていたが農業の普及とともに急速に行われなくなった。祖父江町島本新田で行われてきた虫送りは昭和59年愛知県の無形民俗文化財として指定されたが、平成16年後継者不足で中止に追い込まれた。平成18年牧川小学校に場所を移し有志によって復活した。平成19年からは祖父江虫送り牧川実行委員会が継承している。

麦わらで作った実盛(サネモリ)人形をシンボルとして鎌・太鼓を鳴らし松明の行列を作る。最後に豊作を祈って松明で燃え盛る炎の中に実盛人形を昇天させる行事である。



左上：実盛人形作成の様子
 右上：実盛の美盛人形
 左下：松明を持って歩く様子
 右下：昇天する実盛人形

Twitterやってます
 杏和高校3年生による
 祖父江の虫送り応援アカウント
 「祖父江虫送り」



作成：愛知県立杏和高校3年生地域研究グループ 「虫送りで地域活性化を」

地域の人と触れ合い、地域のことを考え、地域とともに過ごすことのできる素敵な時間でした。

尾張版

「虫送り」ツイッター開設

稲沢市祖父江町で7日、速報予定

稲沢市祖父江町で7日ある無形民俗文化財の伝統行事「虫送り」をPRしようと、地元杏和高校の生徒が、ツイッターのアカウントを開設した。同校では5年前から虫送りの研究を続けている。イラストや写真を交え、歴史などを分かりやすく発信しており、当日はアルタイムで、行事の様子を伝える予定。

(森野ひなた)

虫送りは青虫を追い払って豊作を願う、各地で行われていた伝統行事。たいまつやわら人形を掲げ、鎌や太鼓を鳴らしながら行列を成し、田んぼ周辺を練り歩く。

農業の普及などで多くは廃れたが、町内の一部の地域では江戸時代から受け継がれ、一九八四年に県の指定を受けた。後継者不足などを理由に一度は途絶えたが、現在は地元が八十人ほどでつくる実行委が担っている。

吉和高校では夏休みの課題研究の一環で、有志生徒たちが文献を読み、地元住民への聞き取りを行うなどして理解を深め、行事にも参加している。本年度も水田地域を練り歩く住民たち。2008年7月、稲沢市で





加：地域活性化にも協力できればと話し合い、ツイッターで発信する。

虫送りを紹介するツイッターのアカウントをPRする生徒たち＝稲沢市の吉和高校

七日は午後二時から牧川小学校の体育館でわら人形やたいまつを作り、午後七時ごろから小学校近くの田んぼの周辺を歩く予定。ツイッターではその様子を写真などで配信するため、準備をしている。

実行委会長の海田幸男さん(左)は「昔ながらのやり方を受け継ごうと行事を続けているが、実行委では外部に向けて発信する体制が整っていないのでありがたい」と感謝する。

後援を担っている萩原実さん(右)は「自分と同世代で虫送りに関心のない世代にも読んでもらえるように、ストーリーなどを工夫している。小学生のころから参加してきた地元(の東新宮さん)は「大人になって行事が残っているように、自分たちが次の世代に伝える役割を果たしたい」と話す。

信することになった。アカウント名は「祖父江虫送り」(同名で検索)。五月二十日に開設し、昨年行事に参加した生徒の感想のほか、言い伝えや当日の流れなどを紹介する四コマ漫画を掲載し、随時更新している。